

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



2015年度環境活動レポート

(対象期間:2015年 10月～2016年 9月)

発行日: 2016年12月30日

《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なって参ります。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

<環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水資源使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤グリーン購入の推進。
- ⑥地域貢献活動の実施。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改定日：2011年07月07日

取締役社長

金田 大地

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社: 兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号
工場も同所在地

(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金1,600万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



・株主 1名。

・取締役(役員) 1名

・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門等の設置は行なっていません。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708

担当者 同上

(7) 事業内容

金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、産業廃棄物収集運搬業

(8) 事業の規模

総売上高 2.31億円 (2015年度)

主要商品取り扱い量 6,886t (2015年度)

※事業年度期末時点

活動規模	単位	認証審査時 2009年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
取り扱い数量	t	7,120	6,215	6,525	6,204	6,886
内訳: 金属スクラップ	t	7,108	6,210	6,525	6,198	6,882
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	12.1	5.5	0.6	5.9	3.9
産業廃棄物(収集運搬)	m ³	0	0	0	0	0
売上高(税抜)	百万円	286	334	404	332	231
従業員	人	4	5	5	5	5
床面積	m ²	580	580	580	580	580
保有貨物車両台数	台	3	3	4	4	4
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	3	4	4	4	4

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分: 事務機器類

◆扱い品目: 自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:平成24年1月22日

許可の有効年月日:平成29年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず

7.ガラスくず 8.がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

平成24年1月18日許可更新

平成24年1月18日変更許可

以下余白

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 有

(10) 施設の状況

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディ車	1
7t積み平ボディ車	1
4t積みユニット搭載平ボディ車	1
4t積みアームロール車	1
荷役車両	台数
2.5t揚力フォークリフト	3
油圧式バックホー(0.25mクラス)	1
乗用車両	台数
普通乗用車	1
軽自動車	1

※取引先構内車を含む。

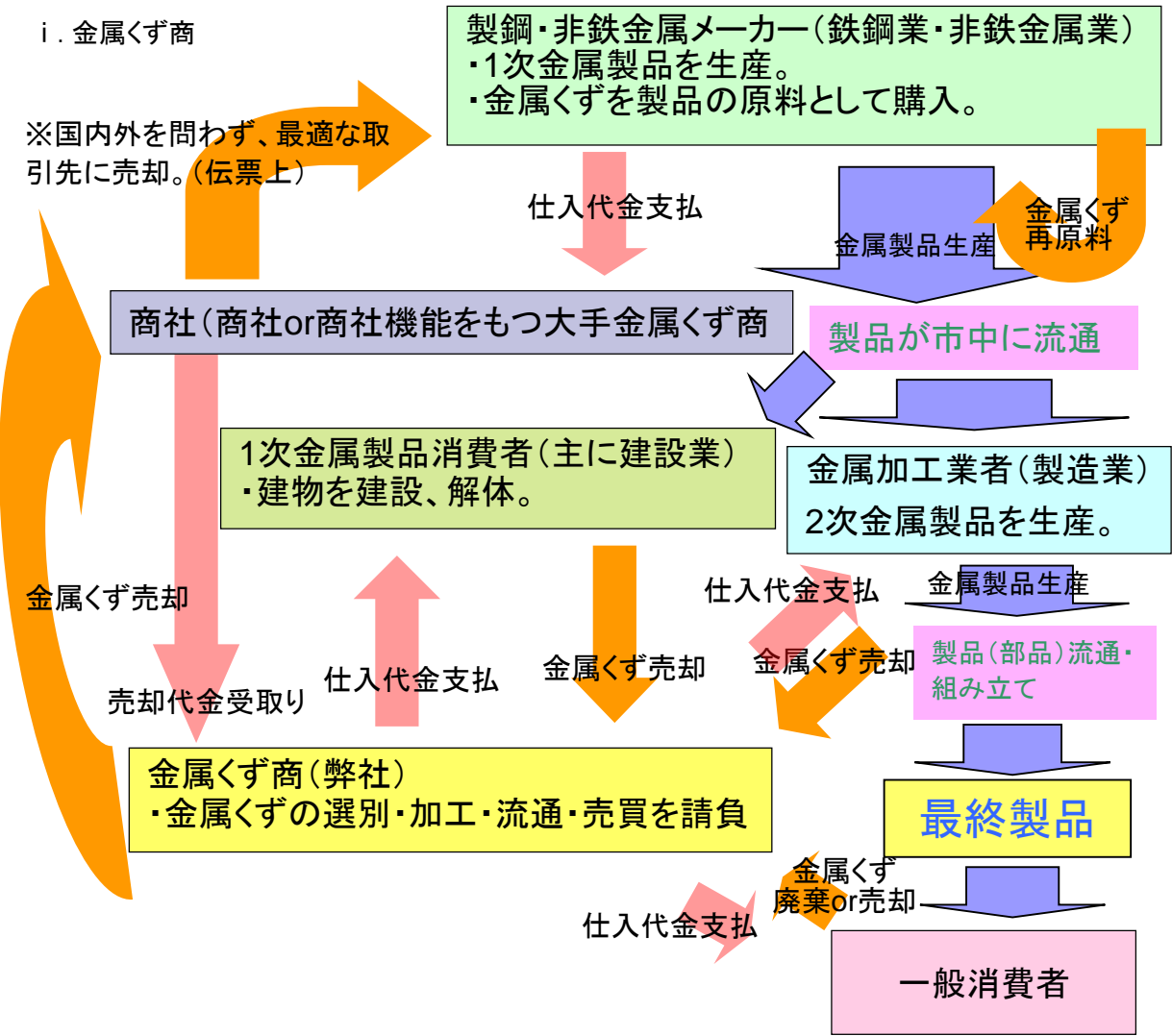
(11) 処理実績

産業廃棄物(収集運搬)	単位	2009年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
廃プラスチック/混合廃棄物	t	12.1	5.5	0.6	5.9	3.9
産業廃棄物収集運搬 合計	t	12.1	5.5	0.6	5.9	3.9

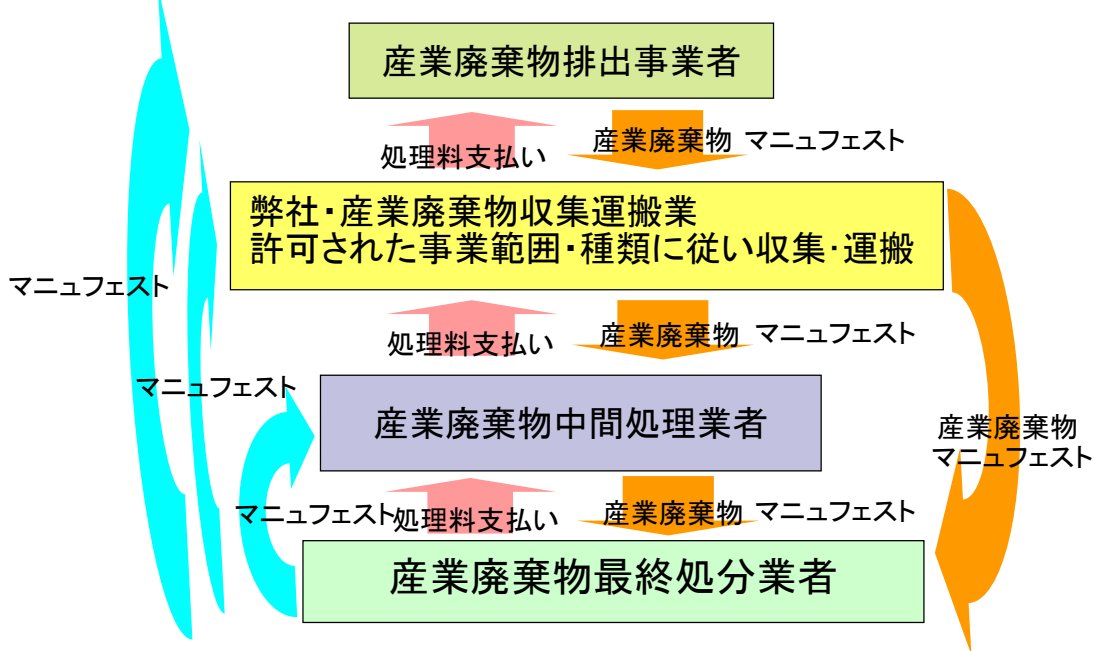
(12) 廃棄物処理料金

取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

(13) 事業計画及び事業概要



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月

□主な環境負荷の実績

項目	単位	基準年度 (目標項目毎)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	52,851.20	53,350.32	52,851.22	48,775.14	51,432.13
廃棄物排出量	t/年	1.620	8.652	11.713	9.148	8.225
一般廃棄物量排出量(自社)	t/年	0.170	0.240	0.223	0.316	0.239
一般廃棄物量排出量(選別)	t/年		1.130	2.110	1.094	0.950
産業廃棄物排出量(自社)	t/年	1.450	0.080	0.050	0.010	0.000
産業廃棄物排出量(選別)	t/年		7.202	9.330	7.728	7.036
総排水量	m ³ /年	24.00	36.00	34.00	34.00	32.00
受託した産業廃棄物の処理量	t/年	11.43	5.48	0.58	5.93	3.89

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。

*2012年度二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO₂/kWhを全年度に適用し、再計算。

□環境目標及びその実績

・環境負荷削減目標

項目	年度	基準値	2015年度		2016年度	2017年度
		基準年度 (目標項目毎)	(目標)基準年度 比99.0%~	(実績)	(目標)基準年度 比98.5%~	(目標)基準年度 比98.0%~
1.電力の二酸化炭素排出量削減(2013年度基準) ※1	kg-CO ₂	4,905.60	4,832.00	4,293.44	4,807.40	4,782.90
2.軽油の二酸化炭素排出量削減(2013年度基準)	kg-CO ₂	42,074.10	41,653.30	43,304.44	41,442.90	41,232.60
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減(2013年度基準)	kg-CO ₂	3,079.70	3,048.90	1,492.71	3,033.50	3,018.10
4.灯油の二酸化炭素排出量削減(2013年度基準)	kg-CO ₂	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5.LPGの二酸化炭素排出量削減(基準年度2013年度)	kg-CO ₂	2,791.80	2,763.90	2,341.53	2,749.90	2,735.90
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	52,851.20	52,298.10	51,432.13	52,033.70	51,769.50
6.一般廃棄物の削減 ※2 (2013年度基準)	(t/年)	0.22	従業員1人当り 0.056t/年以下	0.239 0.048	従業員1人当り 0.056t/年以下	従業員1人当り 0.056t/年以下
7.産業廃棄物の削減 ※3 (2013年度基準)	(kg/t)	0.05	商品数量1t当り 0.18kg以下	0.000 0.000	商品数量1t /0.18kg以下	商品数量1t/0.18 kg以下
7-1.有価物から除去廃棄物	(t/年)					
8.節水	(m ³ /年)	24.00	37.00	32.00	37.00	37.00
		3名 使用量1人 換算8.0m ³ /人 以下≤24m ³	従業員7.4m ³ /人 以下≤37m ³	従業員6.4m ³ /人	従業員7.4m ³ /人 以下≤37m ³	従業員7.4m ³ /人 以下≤37m ³

※1.電力の二酸化炭素排出量削減基準を2011年度とし、以後二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO₂/kWhで換算。

※2 6.一般廃棄物の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

※3 7.産業廃棄物の削減の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

・取り扱い数量目標

項目		年度		2014年度	2015年度		2016年度	2017年度
		(基準年度)	(目標)前年度比102%	(実績)	(目標)前年度比102%	(目標)前年度比102%		
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:基準年度比102%)	トン/年	6,197.94	6,321.89	6,881.68	6,448.32	6,577.28		
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:基準年度比102%	トン/年	5.93	6.04	3.89	6.16	6.28		

・グリーン購入の推進

項目		年度		基準年度実績	2015年		2016年	2017年
		2014年度実績	(目標)前年度目標比+2点	(実績)	(目標)前年度目標比+1点	(目標)前年度目標比+1点		
11.グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数/年	14	16	22	17	18		

・地域貢献活動

項目		年度		2014年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)実績	(目標)前年度比+2回+1本	(実績)	(目標)基準年度比+2回+1本	(目標)基準年度比+2回+1本		
12.弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回/年	9	11	11	11	11		
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本/年	74	75	87	75	75		
項目		年度		2014年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)実績	(目標)基準年度比103%	(実績)	(目標)基準年度比103%	(目標)基準年度比103%		
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg/年	99,852.30	102,847.87	94,571.02	102,847.87	102,847.87		

□環境活動の取り組み計画と評価、次年度の取り組み内容

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
I.二酸化炭素排出量削減(全体) 基準年度比99%以下 達成手段 下記の1～5による。 1.電力の二酸化炭素排出量削減 2.軽油の二酸化炭素排出量削減 3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減 4.灯油の二酸化炭素排出量削減 5.LPGの二酸化炭素排出量削減 達成手段実践状況評価 下記の1～5による。	基準年度	52,851.20	kg-CO2	○目標達成 目標5項目中 達成 4
	目標	52,298.10	kg-CO2	二酸化炭素の排出量削減…総括としての全体評価は、目標値比98%で、2%下回り、辛うじて目標を達成。電力が累計目標値を約11%下回ったのは、2月に事務所および作業場の照明をLED灯に交換したため。LPGは、目標値比85%で達成。灯油は、使用量0で、目標達成。ガソリンは、エコカー使用で、通年の累計目標値の0.49倍で優良実績での目標達成。軽油は、累計目標値比104%で目標未達成。金属スクラップ取扱量が前年度比111%に増加しており、当然の結果。目標の原単位を変更する必要がある。総括すれば、全5項目中4項目が目標を達成しており、許容できる成績を上げた。次年度取り組みを実行するなど削減努力を行いながら、実情に応じた目標設定に変更してきたことが成果に繋がった。今後も、達成可能な目標を立て、一歩ずつ着実に環境活動を行うように指示。
	実績	51,432.13	kg-CO2	
	削減量	865.97	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.98		
1.電力の二酸化炭素排出量削減 *2011年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO2/kWhに変更使用。 ①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動 ③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。 上記 達成手段実践状況評価 ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要以外消灯、電源OFFを行っている。	基準年度	4,905.60	kg-CO2	○ 目標達成
	目標	4,832.00	kg-CO2	累計で、目標値比0.89倍。約11%下回り、達成。2月に事務所と作業場の照明11器22灯をLED灯に交換した効果が一番大きい。また昨今の長時間労働に対する行政指導もあり、業務効率の向上施策をとり、就労時間の短縮に努力しているので、副産物として、電力使用量が削減できた。 【次年度取り組み】 空調機器の更新を検討するよう指示。
	実績	4,293.44	kg-CO2	
	削減量	538.56	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.89		
2.軽油の二酸化炭素排出量削減 エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…△ 車両の買い換えは無し。 ⑤…○ 車検・オイル交換、タイヤ交換等実施。	基準年度	42,074.10	kg-CO2	× 目標未達成
	目標	41,653.30	kg-CO2	通期累計目標値比104%。取引数量が前年同期比で、111%に増加するに伴い、軽油の消費量が増加。うち、取引先の金属スクラップ受託運搬量が、573tで、8.3%を占める。商品の取扱量が増加しての軽油使用量の増加なので、致し方ない。相対的に見て、商品取扱量111%で、使用量104%なので、効率的な運搬と荷役が出来ていることが分かる。引き続き、エコドライブの励行を指示。 【次年度取り組み】原単位を商品取扱数量当たりに見直す検討を指示。
	実績	43,304.44	kg-CO2	
	削減量	-1,651.14	kg-CO2	
	目標対実績比率	1.04		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	基準年度	3,079.70	kg-CO2	○ 目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施	目標	3,048.90	kg-CO2	年間達成状況: 月次目標達成11回。 累計目標達成12回。 通年の累計目標値の0.49倍で優良。 【次年度取り組み】エコモードの活用など引き続き、エコドライブ励行を指示。化石燃料系の車両で電気およびハイブリットに交換できるものが無いか検討したが、適当なものは無かった。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 車両の買い換えは無し。 ⑤…○ 車検・オイル交換等実施。	実績	1,492.71	kg-CO2	
	削減量	1,556.19	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.49		
4.灯油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	0.00	kg-CO2	○ 目標達成
①暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 ②設定温度18℃(暖房20℃以下) ③ウォームビズ運動	目標	0.00	kg-CO2	年間達成状況: 月次目標達成12回。累計目標達成12回。前年度取りまとめ時に、目標項目からの削除が濃厚となったが、次年度より屋外スクラップヤードを設置することとなり、灯油ストーブの使用の可能性が出てきた。次年度の実績が出るまで、削除を見送ることとした。 【次年度取り組み】次年度の使用実績を管理するよう指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 設定温度を守っている。 ③…○ 室内でも防寒具着用を推奨。	実績	0.00	kg-CO2	
	削減量	0.00	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.00		
5.LPGの二酸化炭素排出量削減	基準年度	2,791.80	kg-CO2	○ 目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施	目標	2,763.90	kg-CO2	通期、月次目標達成6回。累計目標達成11回。目標値比0.85倍。達成。 LPG車使用の1顧客の基準年度(2013)の取引数量2,608.8トン、当年度2,278.3トンと基準年度は、当年度の0.8733倍となっている。基準年度比12.6%減となっており、LPGの使用量0.85倍と比例している。つまり、絶対量は削減できているが、実態としては、横ばいと同じということ。 【次年度取り組み】エコドライブを指示。性能が適合するのであれば、電気車の検討を指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…○ 特定自主検査実施済み。	実績	2,341.53	kg-CO2	
	削減量	422.37	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.85		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
6.一般廃棄物の削減	基準年度	0.22	t	○ 目標達成
	目標	従業員1人当り 0.056t/年以下	t	当年度は、目標値を実態に沿ったものとした結果、目標達成となった。元来、発生量は、抑制出来ているので、継続した努力を指示。前年度指示のうち、使用済み軍手の利用法として、ウエスとして使用することにした。
①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化	実績	0.239	t	【次年度取り組み】削減に関するアイデアを募ることとした。
	実績 (1人換算)	0.048	t/人(年間)	
上記 達成手段実践状況評価	削減量	-0.195	t	(取り組み計画外の取り組み) 商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)からの発生量は、 当年度は、前年度から微減。再資源化率は、年間で41.1%と前年の63.1%から下落。単純に、主な発生物である段ボール箱の受け入れが少なかったことに起因する。仕入客には、梱包材の持ち帰りをお願いしているので、その効果も出た模様。
①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 再利用裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	目標対実績比率	4.35		
7.産業廃棄物の削減	基準年度	0.05	t	○ 目標達成
①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化	目標	商品数量1t 当り0.18kg以下	kg/t	通期12ヶ月で、排出量0.00t。自社発生の産業廃棄物は無かった。 【次年度取り組み】継続した努力を指示。
上記 達成手段実践状況評価	実績	0.00000	kg/t	(取り組み計画外の取り組み) 商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)
①…○ 大まかな品目ごとに分別。 ②…○ 随時、口頭によるミーティングと指導を行なっている。 ③…○ 一部再生事業者へ売却。	削減量	0.18000	kg/t	管理・削減目標ではない項目であるが、廃棄物を排出しないという意志を体現した結果、選別ダストの87.5%を再資源化し、有価物として上半期は売却、下半期は、需要減退で、譲り渡しとなった。環境にも良い、営業損益にも貢献し、一石二鳥。この活動は、大変、有意義である。
	目標対実績比率	0.00000		
8.節水	基準年度	24.00	m ³	○ 目標達成
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化	目標	37.00 従業員7.4m ³ /人以下≦ 37m ³	m ³	通期において、目標達成。社内での洗い物や手洗い時にも、皆が節水意識を持って行っており、とても良い。ガス溶断除熱用水をホースによる放水ではなく、ドラム缶に汲み置くことにしたことも、効果があった。
上記 達成手段実践状況評価	実績	32.00 従業員6.4m ³ /人	m ³	【次年度取り組み】継続した削減行動を指示。
①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。給油時、スタンドで簡易洗車をしている。 ②…○ 手洗い時の水の出しっ放しをしないよう指示教育した。	削減量	5.00	m ³	
	目標対実績比率	0.86		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
9.有価物の取り扱い量増加	基準年度	6,197.94	t (トン)	○ 目標達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	6,321.89	t (トン)	通期累計目標値比109%。取引数量が前年同期比で、111%に増加。うち、取引先の金属スクラップ受託運搬量が、573tで、8.3%を占める。利益は低いが、コストも低いので、今後、同サービスを同業者に拡大提供も視野に入れる。前年度取りまとめ時の指示、
	実績	6,881.68	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○仕入顧客登録数前期末比純増数541件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確認。	増加量	559.79	t (トン)	ポイントカード活用については、Eメール送信にて、情報提供を行っている。 【次年度取り組み】隣接地を取得し、金属スクラップヤードを拡張するので、店頭持ち込み量を増加させるよう営業努力を行う。
	目標対実績比率	1.09		
10.産業廃棄物の取扱量増加	基準年度	5.93	t (トン)	× 目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	6.04	t (トン)	当年度は、案件が無く、目標未達成となった。ただ、次年度入りから、定期取卸運搬の契約を締結したので、次年度は、目標達成が出来る見込み。前年度取りまとめ時に決定した社員教育を行った結果である。
	実績	3.89	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価 ①…× 新規契約数前期末比純増数0件 ②…○ プラスチック廃棄物に関して、提案を行った。 ③…○ 金属スクラップとセットの取引には価格の引き下げを行った。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	増加量	-2.15	t (トン)	【次年度取り組み】金属スクラップ取引のある取引先を重点的に営業活動を行う。
	目標対実績比率	0.64		
11.グリーン購入の推進	基準年度	14	品・点数	○ 目標達成
・環境負荷を低減した購買品目を前年度より、目標品数・点数以上増加させる。〔単位：品数・点数〕	目標	16	品・点数	消耗品に関しては、順次、環境対応品に入れ替えが進んでおり、良い。某社カタログには、製品写真ごとにグリーンマークやエコマークが付けられており、購入時、活用している。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ マークのリストを備え置いた。	実績	22	品・点数	
	目標対実績増加量	6	品・点数	【次年度取り組み】新開発のエコ製品について、常に情報収集を行うよう指示。

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評価 結果と次年度の取組内容
12.地域貢献活動	基準年度	9 74	回 本	○ 目標達成
①清掃活動。 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 日常の清掃に加え、清掃日を設け行うことが出来た。	目標	11 75	回 本	清掃活動…実施回数は、前年度9回、当期11回で良好。ほぼ毎月1回実施できており、良いと思う。前年度取りまとめ時の情報提供、発信につき、伊丹市べんり帳掲載、ポイントカード会員に向けたEメール送信を行った。 【次年度取り組み】 情報提供、発信に対し、地域からのレスポンスを受け取れるコミュニケーション手段を模索するよう指示。
	実績	11 87	回 本	
	対目標量	0 12	回 本	
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	基準年度	99,852.30	kg	× 目標未達成
目標:買い受け数量を前年度比2%増加させる。 主要買受け品目:アルミ缶・金属製不用品 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 自治会・子供会、伊丹市近郊在住の方から幅広い買取りを行うことが出来た。	目標	102,847.87	kg	買受数量…買入れは、毎月行えている。月次で、4回達成。 【次年度取り組み】 引き続き、地域に根付いた商売をする施策を取るよう指示。金属スクラップヤードを拡張するので、地域の方の店頭持ち込み量を増加させるよう営業努力を行う。
	実績	94,571.02	kg	
	対目標量	-8,276.85	kg	
	目標対実績比率	0.92		

□環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)	評価方法	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
廃棄物処理法(収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上) 第21条の4	防災設備業者による検査実施。2年毎1回	△検査合格済。 消火器交換済み。
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。 適合車等標章(ステッカー)の貼付。大阪府生活環境の保全等に関する条例第40条の15、16	車検証、ステッカー確認。	○ 適合
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	自動車NOx・PM法 適合車の使用。	車検証確認。	○ 適合
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時	車検証、リサイクル券確認。	○ 適合
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時	廃棄の有無	○ 廃棄実績無し。
遵守評価: ○…適合 違反なし △…改善後、適合(一部問題あり) ×…不適合 重大な違反あり			

□遵守評価についてのコメント

当年度において、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

□外部からの苦情

本活動期間中は、ありませんでした。

■代表者による全体の評価と見直し

大・中・小項目合わせ、全14項目中、達成が11項目、未達成が3項目となり、項目の入れ替わりがあるが全体評価は前年度と同じ。目標設定の基準年度にバラつきがあった各項目の目標を近々の年度に変更し、実態に合った、より現実的な目標に設定することで、目標が明確になり結果につながった。①I.CO2の全体排出量は、目標(本年度)対実績(本年度)で、98%と2%下回り、辛うじて達成。該当項目5項目中、軽油を除く4項目で目標達成。I-1電力消費CO2は、LED灯への交換で削減が進み目標達成。I-2～5化石燃料については、2.軽油が目標値を104%で上回り、目標未達成。3.ガソリンは、ハイブリット車の継続使用で、目標値対実績値が49%と50%以上下回り、依然好成績。4.灯油は、使用実績無しで目標達成。5.LPGは、実質横ばいで、目標達成。②廃棄物全般は、6.一廃が達成、7.産廃も達成。商品の取り扱いに準じて発生する一般・産業廃棄物の再資源有価物化は、一廃41%、産廃87%と前回より低下。③8.節水は、目標単位を対従業員数で、達成。④9.有価物取扱量は前年度比111%、目標値比104%と目標達成。若干の経済活動の回復と取引先の金属スクラップ受託運搬業務により、573tを計上、8.3%を占める。仕入顧客登録数前期末比純増数463件と前年度より78件減少。伸び率さらに鈍化。原因不明だが、ホームページの閲覧数が減少しており、一因と思われる。10.産廃収集運搬量は、未達成。⑤11.グリーン購入の推進は、カタログ活用で着実に目標達成。⑥12.地域貢献活動は、1)清掃活動の成績が良好で目標達成。2)買受量は、減少で未達成。総括としては、前年度と同等の成績となったが、取り扱い商品数量が増加したことは、今後の業績回復にも通じることで、喜ばしい。今後の目標も、商品の取り扱い数量の増量が最重要課題なので、当年度行えなかった商品数量を原単位とする目標設定を次年度は行い、収益と環境活動の両立を図る所存である。

2016年12月24日

取締役社長

金田 大地

□その他の取り組みを紹介

①照明11器22灯をLED灯に交換

2月に事務所と作業場の照明を交換。照明にかかる消費電力を約45%削減。



②使用済み軍手のウエスへの再利用

使用済み軍手をすぐ廃棄するのではなく、油分拭取り用のウエスとして再利用。

洗濯しての再使用は、水質汚染につながる恐れがあるので、ウエスとして再利用を採用。利用後、廃棄。



以上